

農環研ニュース100号を迎えて

(独)農業環境技術研究所 広報情報室長 廉沢 敏弘



農 環研ニュースの第1号が発行されたのは、農林水産省に農業環境技術研究所が設置された翌年の1984年(昭和59年)7月でした。その17年後の2001年(平成13年)7月、51号からは、独立行政法人農業環境技術研究所の定期刊行物として発行され、今回が通算100号となります。

初期の農環研ニュースは研究所の「所内誌」の性格が強く、所職員のほか、関係する国や都道府県の行政・試験研究機関が主要な読者でした。研究所が独立行政法人となってからは、国民とのコミュニケーション手段の一つとしての「広報誌」の役割が重要になりました。農業者、学生や一般の市民など、多くの方に読んでいただけるような編集を心がけ、研究所の見学や公開セミナーに参加された方にお渡ししたり、公共図書館に置いていただけるよう働きかけたりしています。また、冊子を配布するだけでなく、バックナンバーをウェブサイトで提供し、1号から最新号までの全内容を読めるようにしました。

ここでは、「研究トピックス」の中からインターネットで特に多く読まれている記事をご紹介します。

(1) 雑種タンポポの識別と全国分布 (57号、2003年) :

以前はセイヨウタンポポとされていたものの多くが、日本の在来タンポポとの雑種であることを解説しています。

(2) ヘアリーベッチに含まれる植物生長阻害物質シアナミドの発見 (58号、2003年) :

農耕地の雑草抑制に利用されるマメ科植物のヘアリーベッチとその作用物質について解説しています。

(3) 農産物の安全性を守る — 平常時の放射能をモニタリングし、緊急事態にそなえる — (86号、2010年) :

50年以上続けてきた平常時の放射能調査(コメ・小麦・土壌)の目的や成果を紹介した記事です。東京電力福島第一原発事故の1年前に掲載しました。

(4) わが国における小麦の放射能汚染—1959年以來42年間の長期観測とその解析— (60号、2003年) :

小麦の放射性物質(ストロンチウム90、セシウム137)濃度の推移について解説しています。

(5) ひと目でわかるトウモロコシの交雑 — キセニアを利用した交雑率の簡易調査法 — (62号、2004年) :

遺伝子組換え作物と通常作物との交雑の可能性を簡易に推定する方法を紹介しています。

(6) 明治初期の関東地方の土地利用をインターネットで閲覧可能に—歴史的農業環境閲覧システムの開発— (79号、2008年) :

明治期の土地利用図「迅速測図」を現在の地理情報と重ねあわせて見られるシステムの公開と利用方法について解説しています。

(以上のうち最初の3記事はインターネットで1万回以上読まれています。)

研究所では、研究成果や所の活動を皆様に広くお知らせするため、分かりやすく読みやすい誌面となるよう、今後も心がけてまいります。希望される組織や個人の方には冊子を無料でお送りしますので、お知らせください。

